

毎年冬にモーラという氷の魔物が現れる。
教会に相談は来ていたが対応が遅れていた。
はっきりした実害はなく、申告がどこまで本当か分からない。

目的 報酬は合算ではない。最大で15000セレン

- 1：危険度調査 10000セレン
- 2：実態調査 12000セレン
- 3：解決 15000セレン

透き通った透明な氷の結晶のような花エターナルマリー。 冒険者価格で50万セレン。

村全体を囲うように火がくべてある。入口の石門には鍋やフライパンで武装した村人がいる。
気合が入っているがどこか無理をしている様子。モーラ対策と村人が認めた。

花畑に囲まれた家にいる初老の村長。花は黄色と白の中間色のマリーゴールドに近い色合い。
村長は華やかな衣装。3代目だとのこと。豪華な家に招かれた。

モーラはナメクジのような身体にカモノハシのような嘴。不気味な目で凝視してくる氷の魔物
近づくものすべてを凍らせて、毎年村にやってきて花畑を荒らす。

村で防衛しているが、近づくことができず、火を投げて追い払う。年々村の中に入り込むようになった。

エターナルマリーは村の特産品だが、今採れるのは紛い物のみ。
真の美しさを持つ花は祖父の代から採れなくなった。
紛い物でも買ってはもらえるので村の生計は成り立っている。

村長は真のエターナルマリーが採れなくなったのはモーラがすべて荒らすせいだという。
モーラは村長を含めて何人もが目撃している。詳しい情報を求めると数枚つづりの羊皮紙が出てきた。100年以上前の言い伝えらしい。
モーラとは何百年もの間、村と争いがあった。
モーラの住処は森の奥。歩いた跡が分かるので追うのは容易。森は山地まで続いていて歩いて4時間ほどで山地まで行ける。
村長は嘘は言っていない様子。
モーラは魔生物知識では引っかけられない。山の神に近いものがあるが、種族ではないのでよく分からない。
エターナルマリーの花が咲く前に花畑が凍ってぐちゃぐちゃになる。
栽培しているのは村長の家の周りだけ。
村長が物心ついた時にはモーラは追い払っていた。

【羊皮紙の内容】

雪が降っていて多数の人が描かれている。
人々は美しい黄色や白の花を育てている。
醜い魔物がやってきて、通った跡は凍り、草木は枯れている。
人々は、魔物を見ると火の輪を作り、飾りをし、食器のようなものを打ち鳴らしている。
魔物は、花をすべて枯らし、散らせ、真っ白な神々しい花を抱えて去って行く。
人々は神に祈るように地に伏している。

なお、羊皮紙の絵にはアヒルは登場しない。飾り物はちょうど今のクリスマス飾りのように見える。
絵には誰かをかばっている姿もない。

【フリックの考古学的考察】

描かれている花はエターナルマリーで間違いない。
ゴールドマリーには、セレンのこの地方では花言葉で『孤独』という意味があった。
古い遺産であるエターナルマリーはどこかの美術館に飾ってあるが、特別な条件下でのみ咲くれっきとした花。
(特殊な技術や工程が必要)

聖夜に向けて魔除けの飾りつけに行く村長と子供たち。
飾られるのは、星や、貝殻、果実に見立てた鈴、アヒルの人形、シマシマのステッキ、マリーゴールドの花、アヒルの人形、モミの木、アヒル
村の家々でそれぞれ飾りつけをしていて煌びやか。アヒルの頭が飾りつけでは人気。
聖夜に魔物が現れるという言い伝えはあまり聞かない。

【ウィリアムとディアナの憶測】

モーラの姿を無害化したらアヒルになる。
エターナルマリーはモーラが生み出しているのではないか？
羊皮紙の絵で人は武器を手にとってなかった。これは戦闘の絵ではない。
モーラを追い払うのが正しい姿だとしたら、真のエターナルマリーが採れていない説明がつかない。
最後の絵はモーラに対する感謝ではないか？
この村の言い伝えがどこかで間違ってしまったのではないか？

※真のエターナルマリーが咲くための特別な条件を生み出しているのはモーラなのではないか？